

いちのみやの芸術文化

- 特集「画家佐分眞」
- 加入団体の紹介
- 第66回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）

2008.12

第7号

一宮市芸術文化協会

ムードン風景(部分)

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

画家 佐分眞

SABURI MAKOTO

生い立ち

ここに一枚の絵(『一宮三八市場張店』)があります。描いたのは佐分眞(1898〜1936)で、佐分眞一郎と田中たまの長男として名古屋市に生まれた画家です。父は一宮市の財界人で第6代一宮町長を勤めた人。母は、名古屋の花柳界で名妓と謳われた芸者で、当時の軍部・政界の高官たちにもてはやされました。眞清田神社前市の様子を描いたこの作品は、佐分眞に代わり眞一郎家の養子となって跡を継いだ従兄弟の佐分眞が、当時の一宮市収入役を勤めており、昭和14年(1939)刊行の『一宮市史』挿絵として制作を依頼したものです。しかし佐分眞が亡くなったため、完成を待たずに遺作となってしまいました。



『一宮三八市場張店』▷
1936年
妙興寺蔵



◁ 水彩画『浜辺』
1911年*

*は一宮市博物館蔵



パリのアトリエにて 1927(昭和2)年
佐分純一著
『画家佐分眞 わが父の遺影』(求龍堂)による

佐分は、幼い頃から絵が得意で、中学入学の頃すでに高い技術を備えていたことが当時の水彩画から想像されます。愛知県立第一中学校から東京の郁文館中学を経て東京美術学校西洋画科に入学し、大正13年(1924)第5回帝展に《静物》が初入選、翌年にも入選を果たし画家として歩み始めました。

フランスに遊学

第一次世界大戦後の安定と繁栄を回復したパリでは、エコール・ド・パリ(パリ画派)と呼ばれた外国の美術家たちが活躍し、日本の画家もこぞって絵の勉強に出掛けた時代、佐分も昭和2年(1927)にパリの土を踏み本格的な制作を開始しました。この頃は、パリ郊外ムードン周辺の緑と赤屋根の民家を描いた、明るい色彩の作品が多いのが特徴です。

そして、3年の間にイタリアと北欧諸国(ベルギー・オランダ・ドイツ)に研究旅行をし、ヨーロッパの巨匠たちの名画を観て、なかでも以前から崇拜していたレンブラントの作品群を目の当たりにして大いに刺激を受けました。《ブルターニュの女たち》な

△『ムードン風景』1927年*



ど昭和5年(1930)頃制作の作品にはその影響を見て取れます。パリ生活は藤田嗣治・荻須高德らとも交流があり、仲間たちと楽しく切磋琢磨していたようです。

昭和5年暮れに一時帰国、翌年再度渡仏しますが、折しも世界恐慌以来世情不安が拡がり、交友たちも皆帰国して寂寥のうちに南仏を旅などして二度目のフランス旅行を終えたようです。

帝展で特選を3度受賞

一時帰国した昭和6年(1931)の帝展に発表した『貧しきキャフェーの一隅』は特選を受賞、帰国後も2年連続して帝展特選を受賞し、新進画家として大いに脚光を浴びました。官主催の美術展覧会を目標としてきた佐分としては順風満帆のはずでしたが、昭和10年(1935)政府は帝国美術院の改組を発表、それを不満とした美術界



▷『ブルーターニユの女たち』1930年*



△『赤いマフラーの男』1930年*

は混乱し、これを機に佐分は不参加を表明、続いて白日会・光風会も脱退しました。

この一方で、佐分は前年に美術部嘱託として東京宝塚劇場に入社して大壁画を制作したりしましたが(戦後火災により焼失)、この頃は絵よりもむしろ随筆家としてもてはやされ、その特異な文章は大いに好評を博したものです。

そして、昭和11年(1936)4月23日自宅画室にて自ら命を閉じてしまいました。この年の2月26日に二・二六事件が勃発、暗殺された陸軍教育總監渡辺錠太郎は岩倉出身で、佐分家とは懇意な間柄であったといえます。日本が次第に暗い戦争へと突き進んでいく、そんな時代の不安が彼に深い影を落としていたのかも知れません。

(一宮市三岸節子記念美術館 毛受英彦)

絵を描きたいと思っている人たちを対象に昭和63年、旧尾西市の文化講座「水彩画入門」「デッサン入門」が開かれ、静物画、石膏デッサン、人物画と幅広く教えていただきました。その中から絵を描く楽しさを更に体験したいと考えた受講生達で自主グループ「彩の会」を発足させ、今年で20年目になります。

年間計画に沿って花、果物、野菜、人形などの画材を会員が持ち寄り、その中から自分の描きたい物を構成して描きます。絵手紙、色紙、抽象画なども描きます。また、年に1・2回郊外スケッチ（明治村や犬山城など）も行います。講師の先生もそれぞれの持つ絵の個性を活かしながら指導していただきます。

彩の会水彩画展、尾西展、文化祭、葉栗絵手紙教室との合同展と発表の場を広げています。

今年の3月に尾西歴史民俗資料館にて開催した第13回彩の会水彩画展では、新企画「いもシリーズ」としてさつまいも、さといもを描いた絵を展示し、好評をいただきました。来年は「たまねぎシリーズ」と決まり、現在制作に取り掛かっています。

ます。どんな個性的な作品ができるか楽しみです。その節にはどうぞ見に来てください。

月に2回第1、第3火曜日午前9時30分から11時30分まで尾西生涯学習センター5階で家族的な雰囲気の中で制作活動しています。一人で絵を描く時間を作り出すことはなかなかできませんが、教室へ参加すれば自ずとその時間は作れますし、絵を描くことを通じて友達もできます。絵の好きな方、一緒に描きませんか。是非教室へ遊びに来てください。待っています。



◀ 教室にて

【問合せ先】加藤 明美 ☎61-4432

茶の道の根本は、おいしいお茶を点てて客をもてなし、楽しんでいただく、このことに尽きると思っています。

最近のお茶会とは、大勢の客が集う茶会、一般には大寄せ茶会といわれている茶会のことです。広間で1回に20人以上の客が、主に薄茶でもてなされます。こうした茶会は、茶の湯の歴史から見れば、茶道人口が増えた戦後に盛んになったお茶のもてなし方で、本来の茶事は、10人以下を招いて行われ、懐石という食事が伴います。

尾西緑寿会の会員の方々にも家に茶席を設けて、季節ごとに茶会を催される人も増えました。正月の初釜、3月の利休忌、夏のゆかた会、9月の天然忌、冬の夜咄と1年を通じて茶事を楽しんでいます。また、犬山の明治村、京都の大徳寺で催されるお茶会に参加し、旅行気分も楽しんでいます。

一椀のお茶を通じて亭主は心を尽くして客をもてなし、また客はそうした亭主の真心にこたえようとすると、こうした心の交流こそ、茶の湯の最も大切にしているところです。

昔と違い社会の変化が激しい今日この頃、世俗

を忘れ、ストレスを忘れて、一服のお茶碗のお茶の中にあるゆとりを見つめ、味わうことが今日を生きる人々にとって、どんなに大切なことかと思えます。

この地方では、昔は野良仕事の休みにまた、自宅のお客にと、一服のお茶を点てて、お茶に親しんできました。日常の生活の中に、伝統あるお茶の心を持って、ゆとりある生活を心がけていきたいと思えます。



◀ ゆかた会

【問合せ先】筧 満江 ☎62-5059

1972年4月1日、一宮市内及び一宮市近郊在住で音楽を専門に学んだ同士が当地の音楽文化向上と各自の技量の研鑽、及び会員相互の親睦を図ることを目的として結成され1993年に名称が「一宮音楽同好会」から「一宮音楽家協会」と改称され、現在に至っています。

会員は音楽に情熱を傾け、演奏することに誇りをもって日々精進しております。

「一宮音楽家協会」は、1972年5月26日一宮市文化団体協議会に加盟し、同年の一宮市芸術祭に初参加し以来、毎年芸術祭参加による定期演奏会を開催しています。

その主なものを紹介しますと、ナゴヤシティ管弦楽団との共演、一宮市民会館開館記念演奏会、一宮スポーツ文化センター開館記念演奏会などを開催、それに加え、県文連芸能大会出演は、半田市、弥富市、日進市、稲沢市等に及びます。

また、毎年1回のボランティア活動として、一宮スポーツ文化センターにおいて、サロンコンサートを開催しています。

私達のモットーは研鑽を積むことです。そのため、日頃から著名の先生方を招聘し、指導を仰いでいます。今までに指導をして頂いた先生方は、三宅春恵、飯田純子、ヤン・ホラーク、宮原峠子、井上直幸、隈本浩明、廣瀬恵子、クシウス・シルデ、谷口龍博の諸先生方です。



◀ 第36回一宮音楽家協会定期演奏会記念撮影

【問合せ先】久野 以早夫 ☎87-2827

三山会は、尺八を吹き鳴らし、楽しんでいる仲間の会です。尺八は正座で吹く。音が出ない。地味だなどとよく思われていますが、現在は、椅子に座り吹く場合も多く、音出しはビール瓶に息を吹きかけ“ポー”と音を出したあの要領で練習できます。また地味な曲ばかりではなく、今は情景描写も華やかでテンポの乗りも多様な現代風の曲が盛んに作曲されています。

毎年一宮市芸術文化協会の行事である一宮市芸術祭に尾西芸能祭として参加し、また尾西歴史民俗資料館で催される尾西もみじ祭にもお箏、三絃の会の皆さんの協力を得て参加しています。行事に参加するたびにそれぞれ一喜一憂しながら会員同士は交流を深め、互いに刺激をうけて楽しんでいます。

また、一昨年から市内小学校より情操教育目的で依頼を受け、生徒に邦楽史、楽器の説明、演奏等をし、その後生徒に楽器を触らせながら指導しています。約半数の生徒はすぐ

に音を出すことができるようになり、会員一同で「将来が楽しみだ」と話し合っています。

尺八が日本に伝来したのは、奈良時代（1300年前）以前とも云われています。あの聖徳太子も吹かれたとある文献に記されています。歴史ある伝統楽器を日本人の心の支えとして多くの人々に知っていただけたらと思っております。

毎月第1日曜日午後より講師の家に集まり、楽しい雰囲気の中で尺八を吹き鳴らしていますので、一度お気軽にのぞいてみてください。



◀ 尾西芸能祭にて

【問合せ先】水谷 富士雄 ☎62-6022

第66回一宮市美術展



会場風景

11月13日(木)から16日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第66回一宮市美術展」が開催されました。

市内や近隣市町村を中心に、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は605名で、審査の結果、入賞となった175点をはじめ、599作品が展示されました。期間中は、約6、150人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されました。各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

日本画

審査員

鈴木喜家
大島奈知子

市長賞

山田恭嗣

教育委員会賞

水谷喜久子

美術展賞

今枝 昭 佐藤仁美

奨励賞

野々垣久子 星野真由

舘 俊江 甲賀春美

沢井弘子

入選

34点
青山トミエ

洋画

審査員

梅村孝之
長谷川 侑

岩田哲夫

後藤泰洋

高山悟

浅井欣哉

市長賞

教育委員会賞

中村ふく子 後藤 哲子
浅野 亜諭峰

美術展賞

高山美雪 山下久子
金田道子 神谷 武

奨励賞

田中久子 加藤 伸
野崎耕世 水野 潔

山崎正春 岩田明美

黒川麻理子 宮地恭子

藤井 忍 小倉 義夫

富田信子 太田 徹

竹内妙子 竹内保彦

成瀬弘子 安藤桂子

山崎 澄 磯部 静子

柿原テ儿子

奨励賞

香川 絹代 柴田 順子

森 たみよ 岩田 正治

井上美恵子 鴫飼 義信

石神葉子 丹慶 哲宏

平野 肇 田舎中 信孝

八代三枝子 梅田 恵子

祖父江和子 五藤 寿子

石原孝一 大島 裕子

滝川富喜子 大塚 昌弘

関 セツ子 今井 春子

神谷久子 江崎 武夫

瀧 照子

入選

174点

彫刻・立体

審査員

森 克彦
川原 孝文

市長賞

今井田一己

教育委員会賞

横田 千明

美術展賞

林 平 佐藤 朝子

奨励賞

水谷三四士 木野 賢治

入選

21点



洋画部門解説



彫刻・立体部門解説

工芸

審査員 亀井 勝

市長賞 林 節子

市長賞

山田 信久

教育委員会賞

石田 元子

美術展賞

松岡 孝司 山口 きち子

倉田 芳美 山田 早苗

奨励賞

田中 美恵 加藤 文太郎

大柳 良吉 山田 俊子

加藤 陽子

入選 35点

デザイン

審査員 源 安孝

岡崎 美穂

市長賞

三輪 双葉

教育委員会賞

山田 なつ実

美術展賞

中津 歩弓 丸井 響子

奨励賞

脇田 光健 林 優果

入選 22点

書

審査員 稲垣 菘圃

中 林 露風

亀山 雪峰

木戸 竹葉

林 大樹

田代 春苑

森 隆城

山田 杏華

市長賞

大西 影慕 吉田 寿川

神谷 静苑

教育委員会賞

中村 彩香 酒井 淑婉

岩田 展穂 堀場 浅翠

美術展賞

吉田 翠亭

酒井 光華

岩田 佳川

長澤 美峰

大橋 溪煙

安藤 静歩

林 華泉

西村 松花

玉腰 祥華

井内 溪舟

蟹江 紅鳳

長崎 成秀

高取 翠揚

加地 孤握

井上 嘉蓮

松川 春霞

野 杵 怜光

深谷 秋月

石井 玉華

佐藤 紅蘭

野田 智子

真野 藤麗

戸本 有荷

春日井 ゆかり

佐分 恣華

岡崎 啓雪

山田 行鶴

佐合 華婉

高松 彩月

後藤 庭華

戸谷 嘉恵

鵜飼 梨英

西垣 美茜

小松 月泉

井上 瑶香

岩田 波鮮

岸田 松峰

前田 佳峰

宮代 翠霄

若田 彩華

小島 華扇

三好 麗花

近藤 由果

古川 白萩

飯田 美扇

金丸 紫山

伊藤 知佳

山口 雪華

安藤 海花

山本 瑶華

大塚 雅泉

谷本 義仙

林 弥寿子

今井 青翠

野々垣 清城

土屋 葵芳

荒川 征世

可児 長望

永田 張羽

入選 229点

写真

審査員 市川 喜久雄

木村 一成

光田 せいすけ

林 三平

市長賞

櫻井 悦子

教育委員会賞

小原 勇二

美術展賞

長谷川 隆光

田端 勉

今井 要

森田 正路

安藤 正一

中辻 義則

奨励賞

高崎 英美

大田 茂男

菅野 菅夫

鈴木 千恵子

川島 敬

鈴木 治彦

入選 84点

牧 恵清

堀場 英雄

市川 勝朗

江川 源太郎

江川 源太郎

渡部 與明

大西 正信

大矢 真理子

藤本 芳朗

青木 尚子

各務 のぼる

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

伊藤 和機

文化情報



「黎明」 水墨画 丹羽桃慶

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「くらしの道具〜今と昔」

日時 ● 1月10日(土)〜3月1日(日)

午前9時30分〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜日が休日の

場合は翌日休館、以下同じ)

内容 ● 木曾川上流の山間部や知多

半島、渥美半島で使われて

いた生活道具を展示し、自

然環境の違いによる道具の

比較を紹介。

観覧料 ● 一般 200円

高大人 100円
小中生 50円
市内小中生・65歳以上無
料(以下同じ)

「尾張平野を語る13〜尾張藩と木曾川〜」

日時 ● 2月15日(日)・22日(日)・3月

1日(日)・8日(日)・15日(日)

午後1時30分〜3時

内容 ● 江戸時代の尾張西部と木曾

川にスポットをあて、尾張

藩の成立、政治、制度、産

業などについて考えます。

申込み ● 定員100名(当日正午

より整理券を配布)

事前申込み不要

「民俗芸能公演」

日時 ● 3月22日(日)

午後1時30分〜3時

内容 ● 一宮市の無形文化財に指定
されている「民俗芸能」の
公演。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 絵画の陽光〜
ヨーロッパ旅行をたどって〜」

日時 ● 1月27日(火)〜4月5日(日)

午前9時〜午後5時(入館

は午後4時30分まで、月曜

休館、以下同じ)

内容 ● 63歳からの20年に及び再度

仏で画家としての円熟期を

欧州で迎えた三岸節子の当

時の作品を中心に紹介。

観覧料 ● 一般 320円

高大人 210円

小中生 110円

市内小中生・65歳以上無

料

美術館講座「第2学期 美術の学

校」

日時 ● ①2月8日(日)

②2月15日(日)

③2月22日(日)

午後2時〜3時30分

内容 ● 美術館座入門編として、全
3回の講演会を開催。
講師 ● ①愛知教育大学教授
浅野 和生氏

「世界遺産を考える」

②名古屋芸術大学准教授

栗田 秀法氏

「西洋風景画の歴史とその
魅力」
③名古屋造形大学教授

中村 英樹氏

「目の動きを誘う絵」

受講料 ● 無料

申込み ● 定員150名、応募期間

中に往復ハガキにて申込

みを受付け。(市広報で

お知らせします。)

美術館講座「絵ごころ講座」

日時 ● 2月3日(火)〜7日(土)

(全5回) 午前10時〜正午

内容 ● 初心者を対象にした絵画に
ついての講義と実技指導。

講師 ● モダンアート協会会員

鈴木田 俊一氏

受講料 ● 実技材料費2,500円

申込み ● 定員16名、応募期間中に

往復ハガキにて申込みを
受付け。(市広報でお知
らせします。)

冬のワークショップ「からだとお そばう からだとはなそう」

日時 ● 2月14日(土)

- ① 午前10時30分～正午
- ② 午後2時～4時30分

内容 ● 普段は使わないカラダのあ
ちらこちらを動かしてカラ
ダとこころをほぐします。

講師 ● 振付家 山田 珠実 氏

対象 ● ①小中学生(親子の参加も
可)

- ② 一般(50才以上、ご夫婦
歓迎)

申込み ● 定員 ①20名 ②15名、

2月7日(土)までに往復ハ
ガキまたはFAXにて申
込み。

参加費 ● 各自100円

愛知万博フレンドシップ継承事業 「イタリア映画上映会」

日時 ● 3月7日(土)、14日(土)、

21日(土)、28日(土)

開場 午後1時

上映 午後1時30分～

入場料 ● 無料、ただし常設展のチ

ケット(市内小中生・65
才以上無料)が必要です。
上映作品 ● 「永遠のマリア・カラ
ス」、「ニュー・シネマ・

パラダイス」、「ライフ
・イズ・ビューティフ
ル」、「ミルコのひか
り」

美術館講座「日本画を描く」

日時 ● 3月17日(火)～21日(土)

(全5回) 午後2時～4時

内容 ● 初心者を対象にした日本画
についての講義と実技指導。

講師 ● 日本美術院院友

山本 真一 氏

受講料 ● 実技材料費 5,500円

申込み ● 定員16名、応募期間中に

往復ハガキにて申込みを
受付け。(市広報でお知
らせします)

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

「懐かしのSPレコードコンサート」

日時 ● 3月20日(祝)

午後1時30分～3時30分

内容 ● SPレコードの名曲を蓄音

機で鑑賞します。
入場料 ● 無料

青年の家

☎(73)2400

「ヤングフェスティバル」

日時 ● 3月8日(日)

午前10時～午後3時

内容 ● 青年グループによる発表、

展示、交流など市民とのふ
れあいを目的に開催。

参加料 ● 無料(内容により有料)

一宮市民会館

☎(71)2021

「冬のソナタ」コンサート

Featuring Ryu

日時 ● 2月11日(祝)

開演 午後4時～

内容 ● 映像と共に韓国歌手Ryu
(リュウ) コンサート

入場料 ● 6,300円(全席指定)

「スターダスト・レビューライブ

09」

日時 ● 3月8日(日)

開演 午後5時30分～

入場料 ● 6,000円(全席指定)

※3歳児以下の膝上鑑賞は
無料。

(座席が必要な場合は有
料)

「高嶋ちさ子 12人のヴァイオリ

ニスト」

日時 ● 3月29日(日)

開演 午後3時～

入場料 ● 4,000円(全席指定)

未就学児入場不可

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

名作シネマ「しゃべれども しゃ
べれども」&ロビーコンサート

日時 ● 1月17日(土)

ロビーコンサート 午後1

時開演

シネマ 午後2時上映

入場料 ● 当日800円(全席自由)

前売500円

ロビーコンサートは入場

無料

未就学児入場不可

「Yes!プリキユア5GOGO」
「ミュージカルショー」

日時 ● 3月15日(日)

開演 午前10時〜・午後2時30分

入場料 ● 当日 3,000円(全席指定)

前売 2,800円

※3歳未満の膝上鑑賞無料。
(座席が必要な場合は有料)

一宮地域文化広場

☎(51)2180

「天体観望会」

日程 ● 1月23日(金)・24日(土)

午後7時〜8時

オリオン座大星雲 (M42)

おうし座のかに星雲 (M1)

2月20日(金)・21日(土)

午後7時〜8時

プレアデス星団 (M45)

オリオン座大星雲 (M42)

3月20日(祝)・21日(土)

午後7時30分〜8時30分

かに座のプレゼペ星雲 (M44)

オリオン座大星雲 (M44)

申込み ● 詳細はお問い合わせ下さい。
参加料 ● 無料

市生涯学習課

☎(84)0012

「いちのみや女性のつどい」

日時 ● 2月12日(木)

午後1時15分〜3時45分

会場 ● 一宮市民会館

講師 ● 鍛山 矩幸 (元関脇 寺尾)

演題 ● く土俵の鉄人〜「母にもら

った土俵人生」

入場料 ● 無料

一宮市
芸術文化協会
加入団体の
催し

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(72)6606 (以下同じ)

日時 ▼ 1月11日(日)・2月8日(日)・

3月8日(日) 午後1時〜

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『新年短歌大会』

日時 ▼ 1月25日(日) 午後1時〜

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

対象 ▼ どなたでも(大会に先立ち

詠歌を提出)

参加料 ▼ 500円

申込み ▼ 当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(72)7690

日時 ▼ 1月25日(日)・2月14日(土)・

3月14日(土) 午後1時〜

会場 ▼ 葉栗公民館

内容 ▼ 各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 ▼ 1月25日(日)・2月22日(日)・

3月22日(日) 午後1時〜

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)8045

日時 ▼ 1月25日(日)・2月22日(日)・

3月22日(日) 午後1時〜

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『平成20年度支部講演会』

【問合せ先 中部日本書道会

一宮支部】 ☎(73)3513

日時 ▼ 2月8日(日) 午後4時〜

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

講師 ▼ 安藤 滴水先生

演題 ▼ 「近代詩文書の品格」

入場料 ▼ 無料(一般聴講歓迎)

『創立14周年記念日本報道写真連盟 第14回写真支部展』

【問合せ先】一宮写真協会 日本報道写真連盟
 (61)0814

日時▼3月18日(水)～23日(月)

午前10時～

会場▼ギャラリーるば

内容▼写真の展覧会

入場料▼無料

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前月1日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
 または FAX 0586-86-1809

愛知県文化協会連合会の催しなど (報告)

【愛知県文連美術展】

9月30日(火)～10月5日(日)、愛知県芸術文化センター8階、愛知県美術館ギャラリーを会場に文化協会相互の連携のもと、愛知県の美術文化の普及・振興と次代を担う有為な新人の発掘を目的に第33回愛知県文連美術展が開催されました。今年度より、一人2点まで出品することができるようになったため、県下より多数の作品が応募されました。本協会からも(日本画の部)今枝 昭さん、尾池純子さん、(洋画の部)小倉照江さん、米津美代子さんがそれぞれ力作を出品され、みごとに入選されました。



【愛知県民茶会(尾張部)】

10月26日(日)、グリーンパレス春日井、落合公園において、県民茶会が行われました。愛知県文化協会連合会、春日井市文化協会のご尽力により、当協会の一宮市茶道連盟を含め、8つの団体が参加し、約5,100人を超えるお客様をおもてなしいたしました。当日は、あいにくの空模様でしたが、一宮市茶道連盟の皆様はグリーンパレス春日井第2ホール(鶴の間)で設席をし、ご来場の皆様を爽やかな笑顔でお迎えし、和やかなひと時を過ごしていただきました。



【愛知県文連西尾張部芸能大会】

12月7日(日)、美和町文化会館大

ホールにおいて、西尾張地区13市町村の文化協会の代表が一堂に会して芸能大会が行われました。この地域全体の芸能活動のレベルアップを図りつつ、お互いの親睦を深めながら、和気藹々の雰囲気のもとプログラムは順調に進みました。当協会からも代表として、清の琴・ロマンスハープの皆さんが出演し、大正琴の演奏を披露いたしました。大正琴のノスタルジックな音色に会場は包まれ、演奏後観客の皆様からは惜しみない拍手が送られました。

地域文化功労者

文部科学大臣表彰

11月28日(金)、東京都千代田区の如水会館において、平成20年度地域文化功労者の表彰式が行われ、当協会顧問岩田哲夫氏が地域の芸術文化の発展に永年にわたり貢献した功績を讃えられ、文部科学大臣より表彰を受けました。

心よりお慶び申し上げます。

21世紀を迎えて

— 次代に伝えたい美しい日本の心 —

金 美齢さん



10月18日(土)午後1時から、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。

テレビ等でご活躍中のJET 日本語学校理事 金 美齢さんをお招きし、「21世紀を迎えて—次代に伝えたい美しい日本の心—」と題してご講演いただきました。

【講演要旨】

美しい日本の心ってというのは何かって言うこと。美しい日本の心ってというのは、実は農耕民族である日本人が、代々受け継

いできたものなんです。田畑耕して作物を作っていくことによつて、生きてきた人達。みんなが今日はそろそろ田植えだな。稲刈りだな。隣がやるとみんなでお手伝いをして、お手伝いをする。次は私の田んぼで稲刈りをするから、またみんなで手伝つてくれる。こういう和の精神、和を尊ぶ精神でみんなが同じような営みを助け合ひしながら、やっていく。これが農耕民族です。日本人は元々田畑を耕し、農作物を作り、海へ出かけていって魚を獲り、それから色々な物を本心に心をこめて作り上げていく。そういう様な事を生活の営みの中で学んできた民族なんです。これが日本人である。その日本人が持っているのは、いかにみんなで協力し合つて大切に物を作る。いかに手を抜か

ないで、一歩ずつ一歩ずつ積み上げていくかという、これが代々伝わつてきて美しい日本の心、美しい日本人の心を作り上げていった。勿論世の中どんどん便利になっていきます。便利になっているから、経済も発展し、助かることもいっぱいあるし、スピードアップして楽な事もいっぱいあります。それはそれで大切なことなんです。でもそういう世の中だからこそ、時にはひとつずつ積み上げていく大切さも忘れちゃいけない。それが伝えられるのはまずは家庭なんです。家庭の中で祖父母が両親が、子ども達に地道にいかに丁寧に仕事をするかを教えていく、これがまず基本なんです。日本が国際社会の中で競争できるのは、日本人の教育が平均して言えば、世界の中でも高か

つたから、勤勉だったから、創意工夫をやったから、向上心があつたから、ルールを守るから、秩序を守るから、日本はこまごまで栄えて経済大国になったんです。そういう事を蔑ろにしていいたら転落していくのは目に見えています。日本はこの地域のリーダーで、世界のリーダーたる一員であるべきなんです。この地域の安定、世界の平和に貢献するためには、日本人がともに生きていく事が一番大切なんだっていうこと。日本は素晴らしい国です。美しい国です。その美しい日本の心、美しい国を大切にして次の世代に手渡していきたいと思っております。

『いちのみや文芸2008』を刊行しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳合わせて396名の方から寄せられた3,072作品を掲載しています。1冊800円で、市生涯学習課(木曾川庁舎)にて販売しています。貴方も是非一度お読みください。

[題字] 武山翠屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809